

令和7年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物

指導者 尾道市立因島南小学校 吉村 歩
第4学年 1組 19名

1 単元名及び教材名

和室と洋室のよさをしょうかいしよう

「くらしの中の和と洋」（東京書籍「新編 新しい国語 四下」）

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領国語第3学年及び第4学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。」を受けて設定している。

「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつ」力を育成するには、文章の内容について、自分が既に持っている知識や実際の経験などと結び付けて理解を深め、その上で児童一人一人が自分の考えを形成することが必要となる。

本単元で扱う「くらしの中の和と洋」は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」を取り上げ、「和室」と「洋室」の違いとそれぞれのよさについて共通の観点を挙げて対比し、説明した文章である。違いの対比では、「ゆかの仕上げ方」と「置かれる家具」、よさの対比では、「過ごし方」と「部屋の使い方」というそれぞれ2つの観点を挙げ、説明している。

本文に挙げられている「和室」「洋室」それぞれのよさについて、生活の中でこれまで無意識的に感じていたり、取り入れていたりしてきた児童も多くいるだろう。「住」という生活に欠かせない視点で、身近なものだからこそ、既存の知識や実際の経験などと結び付けてそれぞれのよさをイメージしやすい教材である。また、和室と洋室のそれぞれのよさについての理解を深め、「和室と洋室のそれぞれのよさを取り入れたくらし方」について見方を広げながら、自己の考えを形成させることができる教材である。

(2) 児童観

本校ではかねてより、児童が文章を読み取る際に、みずから着目すべき視点を定め、自力読みができるようにするための「読みの視点」の研究を進めている。児童にとっての「読みの視点」とは、「文章を読むときの手がかり・目のつけどころ」と定めている。本学級においては、1学期に学習した説明的な文章「ヤドカリとイソギンチャク」において、児童達は「段落のまとまりに着目して読む」という読みの視点を習得している。「段落のまとまり」を見つけるために、「始め・中・終わりに分ける」「問いと答えに着目する」「筆者の主張を見つける」という3年生までに行ってきた読みを活用し、それらも改めて読みの視点として整理している。これらの学習を通して、説明的な文章における基本の構成を捉える力や、捉えた構成を基に本文に示された情報を理解し、読み取る力を身に付けてきた。しかし、読み取った内容を基に、自分の体験や既習の内容と結び付けて理解を深めたり、自分の考えを形成したりすることには課題が見られる。「初めて知った。」「すごい。」という感想に留まり、内容理解をより深め、見方を広げたり、新たな見方を形成したりするには至っていない。

加えて、本学級の児童が3年生で行った標準学力調査の結果は、以下のような結果になった。

項目	全国	校内	全国との差
「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。」	45.0	37.8	-7.2
「様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。」	40.0	18.9	-21.1

説明的な文章を読み、叙述を基に感じたことや考えたことを表現し、他者と共有する内容の設問に課題が見られた。また、語彙力においても大きな課題が見られた。語彙の乏しさにより、文章の内容

読解に困難が生じ、文章を読んで感じたことや考えたことを形成することへの課題に繋がっていると考えられる。これらの結果を受け、本学級の児童は、書かれている情報を読み取ったり、読み取ったことに対して、自分の感想や考えをもったりすることはできても、それらを他者と共有するために表現を工夫したり、自分の考えを見つめ直したりすることに課題があると考えられる。これは、考えの形成の段階で、読み取った事例と既存の知識や経験を結び付けることで、より理解を深めたり、見方を広げたりしようとする思考力が働いていないことに起因すると考える。

(3) 指導観

指導に当たっては、正確に文章の内容を理解した後、自分の体験や既習の内容と結び付けることで、考えが形成できるような単元を構成する。

文章の内容理解に当たっては、和室と洋室の両方のよさという、二つのものが対比的に書かれているという本文の文章構造を捉え、正確にそれぞれの事例を理解できるようにするため、プレ教材を用いて、複数のものを比較した文章に慣れさせる。また、プレ教材を通して、複数のものを比較する際には、共通の観点を立てることを捉えられるようにする。そうすることで、児童が段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて読み取る際に、「比較の観点を見つける」という読みの視点を得ることができるようになる。また、初読の際に児童が分からない言葉を1つ1つ押さえ、写真などの視覚的資料を用いながら、具体的イメージの伴った言語理解ができるようにする。

また、本単元における主な読みの視点を「自分の知識や経験とつなげる」とし、内容の精査・解釈の学習過程から、本文で挙げられている和室と洋室のそれぞれの事例に対して自分の生活や知識と結び付けながら読むことを意識させる。具体的には、「どんな場面でそれぞれの事例が『よさ』だと感じられるか」を考える活動を行うことで、既存の知識や経験を想起しながら文章の内容理解をより深めることができるようにする。

考えの形成に当たっては、学習前に、実際に和室と洋室体験を行う。和室と洋室体験では、教材文の中で筆者が提示していたそれぞれのよさを実際に試してみることで、児童間での体験の差を埋めることができるようにし、文章の内容と自分の体験とを結び付ける際に一人一人が想起できるようにする。単元の終末では、筆者の述べている主張「わたしたちはその両方のよさを取り入れてくらししている」という意見について、共感するかしないか、自分の立場を明確にし、その理由を考える活動を通して、自分達の生活に目を向け、実感を伴った理解の上で自分の考えを表現できるようにする。

3 単元の目標

- 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し、使うことができる。
[知識及び技能] (2) イ
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
[思考力、判断力、表現力等] C読むこと (1) ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
[思考力、判断力、表現力等] C読むこと (1) オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力、人間性等]

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C (1)オ)	進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況 (B)】	「努力を要する」状況 (C) と判断した児童への指導の手立て															
知識・技能	<p>比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)</p> <p>本文中で比較されている和室と洋室のそれぞれの特徴について、必要な語句を判断しながら、観点ごとに分類し、構成カードにまとめることができる。</p> <table border="1" data-bbox="496 703 1088 1512"> <thead> <tr> <th>洋室</th> <th>和室</th> <th>観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>板やカーペットで仕上げる</td> <td>たたみをして仕上げる</td> <td>◎◎ ゆかの仕上げ方</td> </tr> <tr> <td>部屋の目的に合わせた家具を置く</td> <td>置かない</td> <td>◎◎ 家具</td> </tr> <tr> <td>いすは、それぞれの目的に合わせてしせいとれるように形がふうされているから長時間同じしせいでも、つかれが少ない。すわったじょうたいから、次の動作にうつるのがかんたん</td> <td>いろいろなしせいとれる人と人との間かくが自由に変えられる</td> <td>◎◎ すこし方</td> </tr> <tr> <td>何に使う部屋かすぐ分かる使い方に合わせて使いやすくつくられている</td> <td>一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる</td> <td>◎◎ 使い方</td> </tr> </tbody> </table>	洋室	和室	観点	板やカーペットで仕上げる	たたみをして仕上げる	◎◎ ゆかの仕上げ方	部屋の目的に合わせた家具を置く	置かない	◎◎ 家具	いすは、それぞれの目的に合わせてしせいとれるように形がふうされているから長時間同じしせいでも、つかれが少ない。すわったじょうたいから、次の動作にうつるのがかんたん	いろいろなしせいとれる人と人との間かくが自由に変えられる	◎◎ すこし方	何に使う部屋かすぐ分かる使い方に合わせて使いやすくつくられている	一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる	◎◎ 使い方	<p>本文中の和室の特徴、洋室の特徴それぞれについて書かれている箇所の色分けを行い、それぞれに対応した色の付箋に書き出す。観点が穴あきになったワークシートを配付し、和室、洋室で分類を行った後、それぞれの特徴でペアになるものを見付けさせ、観点を見いだせるようにする。</p>
		洋室	和室	観点													
		板やカーペットで仕上げる	たたみをして仕上げる	◎◎ ゆかの仕上げ方													
		部屋の目的に合わせた家具を置く	置かない	◎◎ 家具													
		いすは、それぞれの目的に合わせてしせいとれるように形がふうされているから長時間同じしせいでも、つかれが少ない。すわったじょうたいから、次の動作にうつるのがかんたん	いろいろなしせいとれる人と人との間かくが自由に変えられる	◎◎ すこし方													
何に使う部屋かすぐ分かる使い方に合わせて使いやすくつくられている	一つの部屋をいろいろな目的に使うことができる	◎◎ 使い方															

<p>思考・判断・表現</p>	<p>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C (1) オ)</p>	<p>振り返り わたしは、筆者の「和室と洋室には、それぞれよさがあり、わたしたちは、その両方のよさを取り入れてくらしている。」という考えに対して、なっとくしました。それは、自分の生活をふり返った時に、和と洋それぞれを取り入れていると感じたからです。私の家の中でも、和と洋は入り混じっています。例えば、私の家のねる部屋は、ゆかの仕上げ方で見ると、和室だけ、その部屋にベッドを置いて使っています。それは、どちらのよさも取り入れて生かした上で、こうした使い方をしています。このように、それぞれの生活などに合わせて、決まった使い方をするのではなく、工夫して使うということが、それぞれのよさを取り入れるということだと思います。 だから、私は自分の生活の中で、和室と洋室のどちらが良いとか、どちらかだけを取り入れることにこだわるとかではなく、それぞれの場面でよさを生かせる取り入れ方をしていきたいです。</p>	<p>○本文で挙げられている和室と洋室のよさだけでなく、自分の生活の中から和室と洋室の要素を出し合い、筆者が述べている観点から見ると、和室と洋室のどちらといえるか整理する。 ○整理していく中で、自分の生活と筆者が述べている考えに繋がる部分があるか捉えられるようにする。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>進んで、文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。</p>	<p>振り返り・学習に取り組む様子 【振り返り】 友達の意見を聞いて、「和室と洋室には、それぞれよさがあり、わたしたちは、その両方のよさを取り入れてくらしている。」というそのくらし方の解釈が広がりました。自分はただ使い分けるといだけの解釈だったけれど、生活によって使い分けすることで生活を豊かにすることだと解釈している友達がいてなるほどと思いました。 【行動観察】 他者と自分の意見を積極的に交流している。 伝えるだけでなく、他者の意見と自分の意見の共通点や相違点を見つけ、自分の考えを見つめ直している。</p>	<p>○他者の意見を聞いて、「自分と同じ考えか」「自分とちがう考えか」の視点で聞き、「おどろいたこと」や「たしかにと思ったこと」を見つけさせることで、他者の意見から新たな発見を得ることができるようになる。</p>

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1・2	○プレ教材「願いをこめた文様ずかん」（熊谷博人・著、岩崎書店）のコラム「外国と日本を行き来した文様」を読み、複数の事例を挙げて説明している文章構造を捉えることを通して、「事例を見付ける」ために「比較という観点で読む」という読みの視点を獲得する。 ○前時の内容を基に、構成シートに整理する。				
	3	○筆者の考えと、それに対する初読の自分の感想・考えと比較し、問いを形成する。				
二	4・5	○教材文「くらしの中の和と洋」を読み、「すごし方」と「部屋の使い方」という観点を挙げて和室と洋室のよさが説明されている文章構造を捉える。 ○前時の内容を基に、構成シートに整理する。	○			[知識・技能] 構成シート ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。((2)イ)
	6	○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて読み取ってきた活動を踏まえて、和室と洋室のそれぞれのよさが生かされる場面を、自分の生活や既存の知識と結び付けながら具体的に考えることで、筆者が挙げている事例についての理解を深める。				
三	7 (本時)	○筆者の伝える和室と洋室の「その両方のよさを取り入れてくらししている」という意見に対して、「両方のよさを取り入れてくらし」とはどんなくらし方なのか、自分達は両方のよさを取り入れてくらししていると思うか、考える。(本時)		○		[思考・判断・表現] ノート ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C(1)オ)
	8	○それぞれの考えや感想を共有し、本文の内容理解や筆者の考えに対して自分の感想や考えをもつ際に想起したことを整理する。			○	[主体的に学習に取り組む態度] 児童の様子 ・進んで文章を読み、理解したことに基づいて感想や考えを持ち、他者との交流を通して自分の考えを見つめ直ししながら、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。
四	9	○単元の振り返りを行い、身に付けた資質・能力、読みの視点について整理する。				

6 本時の学習

(1) 本時の目標

文章を読んで理解したことと自分の生活や知識を結び付けて、和室と洋室のそれぞれのよさについての理解を深めたことを通して、筆者の考えに対する自分の考えを形成することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2 筆者の主張に対して、自分の立場を明確にする。(5分)</p> <p>3 本時のめあてを確認する。(5分)</p>	<p>○本文の筆者の主張にあたる文章を確認し、筆者がこの文章を通して述べてきたことを全員で共有できるようにする。</p> <p>□みなさんは、「和室と洋室の両方のよさを取り入れてくらししている」という筆者の意見について、共感しますか。</p> <p>○筆者が伝えている「わたしたちは和室と洋室の両方のよさを取り入れてくらししている」という意見について、共感するかしないか問いかけることで、自分が選択した立場の具体的な場面を想起しやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感します。理由は、数は少ないかもしれませんが、まだいろいろな施設に和室があったりするからです。 ・あまり共感はしません。なぜなら、施設とかには残っていたりするかもしれないけど、実際の生活の中では和室をあまり見かけなくなっているからです。 	
<p>めあて</p> <p>筆者が述べている、「和室と洋室のそれぞれのよさを取り入れている」くらし方とは、どんなくらし方なのか本文をもとに考え、筆者の考えに対する自分の考えをもとう。</p>		
<p>4 教室は、和室なのか、洋室なのかについて、本文に挙げられていた観点を基に考える。(10分)</p>	<p>○教室は、和室なのか、洋室なのかを問いかけ、その判断基準として本文に挙げられていた観点を提示する。その際に、児童からは、本論①である「ゆかの仕上げ方」や「置かれる家具」といった「和室と洋室の違い」の観点で判断する意見が多く出ると考えられる。そこで、本論①「和室と洋室の違い」と本論②「和室と洋室のそれぞれのよさ」という2つの事例について、どちらがより主張と繋がり深い事例となっているのかを考えることで、「和室と洋室のそれぞれのよさを取り入れる」ということが、「和室が少ないから取り入れられていない」「洋室が多いから取り入れている」という見方のみではないということに児童が気付くことができるようにする。</p>	

<p>5 その他の部屋について、和室なのか洋室なのか、本文に挙げられていた観点を基に考える。(10分)</p>	<p>○教室だけでなく、家や他の施設などでも、「違い」の観点だけでなく、「よさ」の観点と合わせて和室か洋室か考えることで、どちらの特徴も取り入れている場面はないかを吟味できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの家は、「ゆかの仕上げ方」という観点ではフローリングだから洋室といえます。でも、「置かれる家具」としてこたつがあって、「過ごし方」はゆかに直接すわって過ごすことがあります。 ・ぼくの部屋は、「置かれる家具」で見るとベッドや勉強机があるので洋室だけど、「使い方」で見ると、ねる部屋と勉強する部屋など1つの部屋をいろいろな目的に使うといった和室のよさがあります。 <p>◆身近な部屋や施設を想起させ、和室か、洋室かの判断をするという視点で考えることで、本文を具体的な事例と結び付けながら読み進めることができるようにする。</p>	
<p>6 筆者の考えに対して、自分の感想や考えをもつ。(10分)</p>	<p>□筆者が伝えている「わたしたちは和室と洋室のそれぞれのよさを取り入れている」というその「くらし方」はどんなくらし方なのでしょう。また、その考えに対して、みなさんは共感しますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、「和室と洋室のその両方のよさを取り入れてくらししている」というそのくらし方というのは、和室や洋室をどちらも作ったりすることだけではなく、和室で洋室のような過ごし方をしたり、洋室で和室のような過ごし方をしたりというような、両方が同時に入り混じっているくらし方のことだと思います。 ・自分の家でも、和室に洋室で使うような家具を置いてすごしています。だからわたしは、筆者の「和室と洋室には、それぞれよさがあり、わたしたちは、その両方のよさを取り入れてくらししている。」という考えに対して、なっとくしました。だから私は自分の生活の中で、どちらかだけを取り入れるのではなく、それぞれのよさを生かせる取り入れ方をしていきたいです。 <p>◆始め・中・終わりの構成で書くことを意識させ、始めには筆者が伝える「和室と洋室の両方のよさを取り入れたくらし方」とはどんなくらし方だと考えるか、中には自分の生活で実際に取り入れている（もしくは取り入れていない）と思う具体的な場面について、終わりには本文を読んだことでこれからどんなくらし方をしていきたいかを書くようにする。</p>	<p>〔思考・判断・表現〕 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(ノート)</p>
<p>7 本時の学習の振り返りを行う。(5分)</p>	<p>○友達の考えを聞き、共感したことや新たに気付いたことについて振り返りを行う。</p>	

(3) 板書計画



7 指導の実際

(1) 指導上の工夫

ア 既習教材で学習してきた「読み方」を生かすための工夫

2 (2) 児童観の項で先述したように、本校では「読みの視点」の研究を進めている。この「読みの視点」における、本学級の児童の実態として、説明的な文章には「問い」と「答え」があることや、まとめの文章が終末にあること、筆者の伝えたいことが書かれていること等、これまでの学習経験を基に、説明文を読む際のいくつかの「読みの視点」を持っていると言える。しかし、これまでの学習経験で身に付けてきた「読みの視点」を自覚できていなかったり、それらに着目して読むことが文章全体の内容理解に繋がっていなかったりする現状があった。そこで、単元に入る前に、これまで読んできた説明的な文章を読んだ際の学習を振り返り、どのような学習活動をしてきたか整理することで、既習教材で学習してきた「読み方」を児童が生かしながら、本教材に向かうことができるようにした。

この活動を行うことで、本教材文を初めて読んだ際に、「問い」と「答え」のまとまりを見つけた児童や、「筆者の一番伝えたいこと」を見付ける児童等、初めて出会う文章であっても、大体の文章構成や内容を捉えることができている児童の姿が見られた。



写真1 児童がこれまでの学習を振り返り，整理している様子

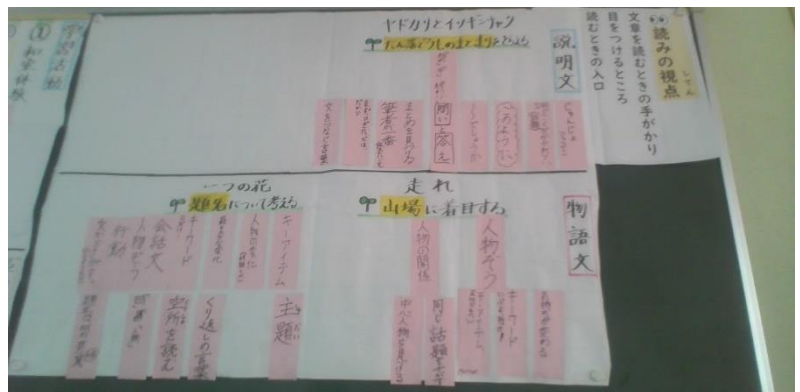


写真2 整理した「読みの視点」

イ 見通しと学習の足跡を視覚化し、意欲的に学習に臨むための工夫

単元の学習前に、児童と学習計画を共に立て、一つ一つの学習活動に目的意識をもって取り組めるようにした。児童達はこれまでの学習を通して、学習が進む中で新たな問いや活動が生まれるということを経験してきている。例えば、「ヤドカリとイソギンチャク」の学習において、段落のまともに分けながら、内容の精査・解釈を深めていく中で、児童達は「生き物の共生についてもっと知りたい、広めたい」という新たな感想をもった。そしてそれが、次單元「書くこと」の「わたしのクラスの『生き物図かん』」の学習への意欲づけ、そして「ヤドカリとイソギンチャク」の学習で身に付けた力を生かして文章を書くという目的意識に繋がった。このように、学習を進める中で最終的にやりたいことが出てくるという経験があったため、学習計画は学習の進行に沿って変わっていくものであって良いということを手

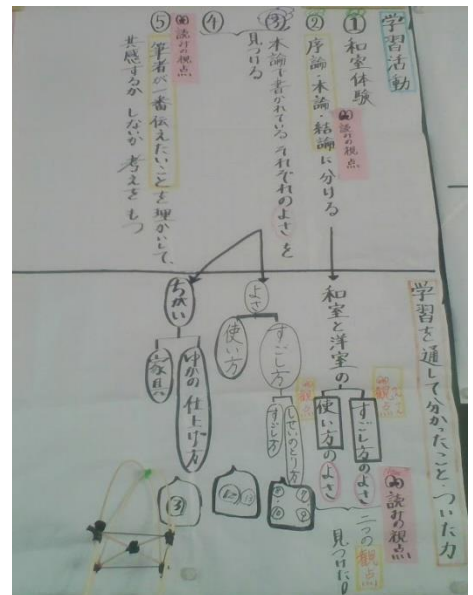


写真3 学習計画

に、最初の計画で立てたゴールは「筆者の一番伝えたいことを理解する」とした。後の単元計画だけでなく、その下部に、それぞれの授業で得た知識や読み取ったことを記していくことで、学習の見通しと足あとを視覚化し、児童が学習の成果を感じながら意欲的に学習に臨むことができるようにした。筆者の考えを読み取った段階で、読み取ったことを生かしてできることはないか、学習計画の再考を行い、第2学習のゴールを「和と洋を取り入れたくらしについてより理解を深める」とした。学習計画を立てるとい活動において、単元途中で再考の時間を設けたことで、児童達がみずから読み取りの学習に意味をもたせ、かつ自己調整しながら学習を進めることができた。

ウ 内容理解のための工夫

教材文では和室、洋室それぞれの特徴について、共通の観点で対比しながら説明がされている。児童がそうした本文の対比構造を理解し、違いの対比では、「ゆかの仕上げ方」と「置かれる家具」、よさの対比では、「過ごし方」と「部屋の使い方」というそれぞれ2つの観点が挙げられていること、そしてそれらの観点に沿ったそれぞれの部屋の特徴を正しく読み取ることができるようにするため、まずはプレ教材を使って対比構造の基本を捉えることとした。「願いをこめた文様ずかん」(熊谷博人・著、岩崎書店)に収録のコラム「外国と日本を往来した文様」を読み、複数の事例を共通の観点を立

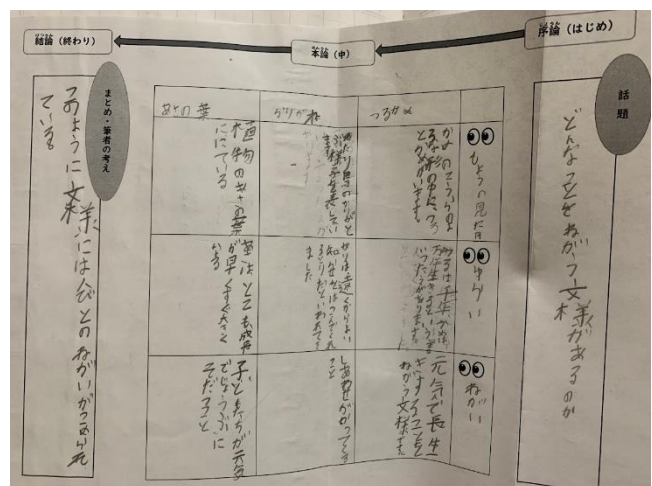


写真4 実際に児童が記入したプレ教材で使用した構成シート

て説明している文章構造を捉えることを通して、対比の観点を見付けることができた。この学習経験から、「くらしの中の和と洋」の学習に入った際に、題名から和と洋という複数の事例が書かれていそうだと予想を立てたことで、それらを比べるための観点があるのではないかと着目して読み進めることができている児童もいた。

エ 考えの形成を促す工夫

児童の中には、自宅等の身近なところに和室が無い児童もいた。本文の内容理解の際に、自分の知識や体験と結び付けるといことがそれらの差によって困難になる児童もいるかもしれな

いと考え、初読を終えた後、地域の公民館にある和室を訪れ、和室体験を行った。これらの体験を通して、児童間での体験の差を埋めることができるようにし、文章の内容と自分の知識や体験を結び付ける際に一人一人が想起できるようにした。

体験の最中には、本文に書かれていたことを試す児童の姿も見られた。例えば、筆者が挙げていた和室のよさである「いろいろなしせいをとることができること」について、正座やあぐらなどの座り方を試したり、寝転んだりする姿が見られた。また、「人と人との間かくが自由に変えられること」についても、「話し合いをする場合」「室内ゲームをする場合」「お茶会をする場合」等、想像した状況に合わせて間隔を変えるとといった動きをする中で、筆者の挙げている和室のよさを実感している児童もいた。これらの体験を通して、文章が単なる情報としてではなく、実感を伴った児童自身の理解に繋げることができた。



写真5 和室体験の様子



写真6 本文で挙げられていた特徴を試す児童

また、文章の内容について、自分が既にもっている知識や実際の経験などと結び付けて理解を深めることができるようにするために、普段使っている部屋や施設について、和室なのか、洋室なのか本文に挙げられていた観点を基に考える活動を行った。この活動を通して、自分達の生活の中に和室と洋室のそれぞれの特徴、よさが入り交じっていることを多くの児童が実感することができた。

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 観点を見つけて特徴を整理することが難しい児童

文章を読み、内容について尋ねられたことに答えることはできるが、構成シートを基に本文の内容を整理することが難しい児童がいた。

〔講じた手立て〕

全体の中から和室と洋室の特徴についてくわしく書かれた文章のみを抽出し、和室と洋室でそれぞれ色分けを行った。その後、一つずつ特徴をカードに書き出し、和室と洋室で同じ内容を伝えているカードはどれかを問いかけ、ペアを作らせた。その活動を経て、穴あきのワークシートに書き込ませるといった活動に入るよう促した。

イ 自分の経験や知識と結び付け、自分の考えをもつことが難しい児童

普段使っている部屋や施設について、和室なのか、洋室なのか本文に挙げられていた観点を基に考えることはできたが、それらの想起と筆者の考えに自分の考えをもつことが繋がれず、考えを形成することができない児童がいた。

〔講じた手立て〕

筆者が挙げていた事例一つ一つに対して、「たしかに」「自分も似たようなことがあったな」と思ったことはなかったかを質問しながら、出てきた答えを教師が付箋に書き出し、教材文に貼っていった。付箋を貼ったところの事例については、教師から児童に、自分が筆者に共感していることだね、と伝えて整理し、「わたしは〇〇〇（本文の叙述）に対して共感します。なぜなら～（付箋に貼った内容）という経験があるからです。」という文例を示した上で書くように促した。

8 評価の実際

(1) 評価の具体

【知識・技能】

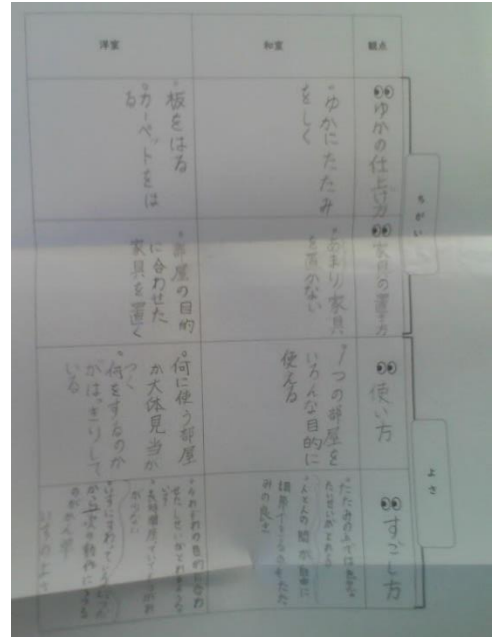
「十分満足できる」状況（A）

本文で比較されている和室と洋室のそれぞれの特徴について、必要な語句を判断しながら分類し、児童自身が観点を見出して構成カードにまとめている。



「おおむね満足できる」状況（B）

本文で比較されている和室と洋室のそれぞれの特徴について、必要な語句を判断しながら、観点ごとに分類し、構成カードにまとめている。



【思考・判断・表現】

- ① 筆者が述べている「和と洋両方のよさを取り入れたくらし方」について理解したことを書いている。
- ② 自分の体験を想起している。
- ③ 上記を踏まえて「これからの生活でどんなくらし方をしていきたいか」考えを書いている。

「十分満足できる」状況（A）の児童の感想文（端末で児童が打ち込んだドキュメントから抜粋）

○ わたしは、筆者の両方のよさを取り入れたくらし方は、使い分けながら自分の生活を豊かにすることだと思います。

わたしの家は、きほんは洋室です。テレビがあったり、ソファがあったり、テーブルがあったりして、とびらも洋っぽい見た目です。（木みたいな）その部屋の目的に合った家具があるので、したいことが楽にできてすごしやすいです。でも、ぎもんに思ったのが、とびらの形が引き戸になっていて、これは和室のふすまみたいな形だと思って、和室のつくりから来ているのかなと思いました。調べたら、AIによると引き戸は日本の文化や生活の知恵から生まれた、機能的かつ芸術的な建具です。と書いてあったので、これも一つの和室と洋室のよさの取り入れ方だと思いました。

わたしは、筆者さんのように両方のよさを取り入れたくらし方をしていきたいです。理由は、どちらも取り入れようとしたほうが、生活が豊かになるからです。生活の中で、こういうときはどっちがいいかを考えながら生活したいです。

筆者が述べている「和と洋両方のよさを取り入れたくらし方」について理解したことを書いており、自分の生活における「和室」と「洋室」それぞれのよさを取り入れた場面について過ごし方想起し、それぞれのよさをその時々で取り入れていることを理解した上で、これからの生活に対する自分の考えを書いている。

「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の感想文 (端末で児童が打ち込んだドキュメントから抜粋)

- 「両方のよさを取り入れる暮らし方」というのは、それぞれ使い分けてすごしやすくすることだと思います。わたしは和室も洋室も両方あった方がいいと思うけど、他の人たちはちがう考え方もかもしれません。このように、人によって考え方もちがうから、だから取り入れ方もいろいろあります。わたしが両方がいいと思う理由は、洋室はこの部屋を何に使うのかが分かりやすいことで、和室は一つの部屋をいろいろな目的に使うことができるということから、何に使うのかが分かりやすいと、わたしもその部屋ですごしやすかったけいけんがあって、ぎゃくに和室はねるときやご飯を食べるときなどいろいろなことに使うことがあってべんりだったからです。
- だからわたしは、筆者が言うことにさんせいです。
- だからわたしは、これからの生活で、どちらかだけを選ぶとかじゃなくて、どっちものよさを知っていきたいです。

筆者が述べている「和と洋両方のよさを取り入れた暮らし方」について理解したことを書いており、自分の経験と結び付けながら「和と洋両方のよさを取り入れた暮らし方」への理解を深めた上で、これからの生活に対する分の考えを書いている。

- ぼくは、和室と洋室どちらも使っています。和室では、ふつうに和室として使うときもあるけど、広いから、たくさんの物を置くおしいれみみたいな使い方もしています。ぎゃくに洋室はあまり家具を置いてなかったりして、それはぼくの洋室はあまりスペースがなくて家具が置けないからです。和室や洋室でも、使いやすいところや使いにくいところがあります。筆者は、こういうのを合わせながらくらしていると言っているんだと思います。だからぼくは筆者の考えに共感しました。これからは、使いやすいところや使いにくいところを考えながらよさを取り入れてすごしたいです。

自分の家の「和室」と「洋室」の使い方を自分の経験として想起し、状況に合わせて使い分けていることを理解し、これからの生活に対する自分の考えを書いている。

【主体的に学習に取り組む態度】

進んで文章を読み、理解したことに基づいて感想や考えを持ち、他者との交流を通して自分の考えを見つめ直しながら、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。

「十分満足できる」状況 (A)

進んで文章を読み、自分の経験を想起しながら理解したことに基づいて感想や考えを持ち、他者との交流を通して自分の考えを見つめ直した上で、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。

「十分満足できる」状況 (B)

進んで文章を読み、理解したことに基づいて感想や考えを持ち、他者との交流を通して自分の考えを見つめ直しながら、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。

(2) 児童の評価

観点	評価規準	A	B	C
知識・技能	比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。(2)イ)	5人	11人	3人
思考・判断・表現	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	1人	13人	5人
主体的に学習に取り組む態度	進んで文章を読み、理解したことに基づいて感想や考えを持ち、他者との交流を通して自分の考えを見つめ直しながら、学習課題に沿って、文章にまとめようとしている。	2人	12人	5人

9 成果と課題

(1) 成果

説明的な文章を読む際に、自分の既存の知識や経験と結び付け、さらに感想や考えをもつという指導がこれまで不十分であった。今回の学習で、児童は教材文を読み、書いてあることと自分の知識や経験を結び付けることで、より文章の内容を深く理解することができた。また、筆者の考えに対して自分の感想や考えをもつという活動に重点を置いたことで、筆者が本文を通して伝えようとしていることは何かを正しく捉える必要性があったため、叙述に立ち返り、自分本位の解釈ではなく、筆者は本文で何を言っているのかを入念に読み取る意識を児童が持つことができた。

(2) 課題

考えの形成の段階で、筆者の伝えていることに対して、「共感」「納得」の意見からさらに新たな自分の考えをもつこと、自分の考えを相手に伝わるように言語化することが難しい児童が多かったこと、共有を通してさらに自分の考えを再考したり、吟味したりする段階まで指導することができなかったことが課題として挙げられる。筆者の伝えていることに対して、「共感」「納得」の意見からさらに新たな自分の考えをもつことについては、教師側の「考えの形成」に対する理解が不十分で、「精査・解釈」との境界が曖昧になっていたことが、児童の考えの形成に結びつかなかった。また、自分の考えを相手に伝わるように言語化することが難しい児童が多かったことについては、本文を基に、自分の知識や経験を想起することはできても、筆者の考えに対して自分はどう考えるか、そして想起した内容が、自分の考えに対してどのように繋がるかを整理してうまく言語化させるための手立てが不十分だったと言える。また、共有の活動の中で、お互いの意見に対して疑問を抱いたり、より説得力が増すように推敲し合ったりする児童の姿は見られず、互いの思考を深めるための有効な共有の場を作ることができなかった。

(3) 今後に向けて

本単元では考えの形成を重視した学習を進めた。こちらの想定よりも、児童は大変意欲的に学習に取り組むことができた。この活動を通して、本文を主観ではなく、筆者視点で叙述を基にしながから正しく読むことの大切さ、正しく読み取った上で自分の考えをもつことの大切さ、自分の考えをもつ際に、既存の知識や経験を想起することの大切さを実感することができた。そして何よりも、教師が考えの形成までを見通して教材研究を進め、児童一人一人にどのような考えをもたせたいか、より具体的にイメージをもつことの大切さを感じることができた。児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるためには、そのゴールイメージを教師自身が明確にもっておくことが大切で、それが曖昧になってしまうと、児童に力を付けるための指導は行えないと改めて実感した。今後の授業づくりにおいても、本単元で意識した考えの形成まで見通した単元構成、そして評価の具体性をもって臨んでいきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
調べる学習百科 願いをこめた 文様ずかん	熊谷 博人／監修	岩崎書店
調べて、くらべて、考える！ 暮らしの中の和と洋 着る	岡部 敬史／編著	汐文社
調べて、くらべて、考える！ 暮らしの中の和と洋 食べる	岡部 敬史／編著	汐文社
調べて、くらべて、考える！ 暮らしの中の和と洋 住む	岡部 敬史／編著	汐文社